



三井新成議員

第5次総合計画は町民に夢と希望をあたえられるか

チャンスを活かせば夢は大きくなる

質問：第5次総合計画の策定に入ったが、町民の夢と希望を与えられるものとなっているか。

町長：富士見の課題は少子高齢化が進むなか、過疎化対策をいかに行うかである。若者が富士見に来て働いてもらうことも、企業が地方へ来て事業を展開することが必要であり、テレワーク事業の効果が期待できる。

都会のオフィスでパソコンを使う仕事は、会社に行かず、富士見町でも仕事を行うことができるため、その環境の整備が

テレワーク事業である。

日本政府は地方再生に力を入れはじめ、富士見のもっている強みを生かすことが大事。富士見の

強みとは東京まで2時間という距離と大きな地震が起きても比較的安全であること、富士山が噴火しても火山灰は飛来してこないなどの位置的な環境要因と生活圏インフラ

の充実である。近隣にはアウトレットがあり、多数のゴルフ場、温泉、24時間営業のショッピング店もあり、自然豊かな地

でありながら、生活するにも便利で、都会にいく多くの若者を呼び込むことが期待できる。すでに3、4社がテレワークオフィスの開設を希望している。

また、これから始まる新しい産業としてワインバレー構想の実現と富士見高原ファームのジビエ、ニユージールランド産カシスの特産品など、期待が

持てる事業があり、今のチャンスを活かせば夢はかなり大きく持てる。その土台づくりを進めている。

質問：第5次総合計画を実施する上で、各事業の専門家や、プロデューサーやデザイナーを有する人材等、外部機関を活用する考えは。

町長：事業を進めていく過程では、政府や大手企業、ベンチャー企業とのパイプがないと話が進まない。そのパイプを作りながら担当部署をフォローし実現していく。

■夢の森北側河川敷について

質問：夢の森北の公園化の考えは。

町長：以前から要望があり、検討する。

□その他の質問

*豪雪時の除雪ボランティアについて

*公園整備について



小池博之議員

小中校での土曜授業実施へ向け、町教委の取り組みは

一日も早い復活を期待している

質問：土曜授業を実施する学校が増えていく。県内の状況を含め町教委の取り組みは。

教育長：まだ具体的に検討していない。県下では諏訪清陵中学と屋代中学で実施している。土曜授業の復活は、ゆとりを持って学習や部活に時間を使えること、生活

のリズムの面でも望ましいが、町独自の実施では教職員の確保、事務局の充実、保護者の理解も必要で、単独で実施するこ

とは無理がある。

質問：児童数が減少していく中で、小学校の環境整備の今後は。

教育長：富士見小は築39年が経過している。15年以内に改築を考えなければならぬ。この時期に3校の統合を含め、適正規模の小学校を考えていく。学校統合は地域の過疎化との問題もあり、町の将来構想とリンクして考える必要がある。

■スマホや携帯電話の急速な普及と教委の取り組みについて

質問：子どもに「夜9時からスマホや携帯電話の使用を禁止する」などの取り組みをする自治体がある。スマホなどの使用について、どう指導しているか。

教育長：中学生の所持率は25%、小学6年生が19%。全国平均を下回っており、大きな問題は出ていない。愛知県刈谷市

での取り組みが注目されているが、当町でも関係者に呼びかけ検討委員会を近く立ち上げたい。文科省の調査でも、スマホの使用頻度が学力に影響していることが判明した。この観点からも考えていきたい。

■南ア・エコパーク認定と広域観光について

質問：認定に伴い、広域連携の方針は。

町長：入笠山地域のスズランなど山野草群落釜無アツモリソウなど絶滅危惧種の保護育成プロジェクトが、認定の過程で高く評価された。隣接2市との連携をさらに強化する中で、リーダーシップを持つ、伊那市とは積極的に連携していきたい。パノラマスキー場のドイツスズラン園は、観光客を呼び込むために不可欠。目的、手段を分けて考え、現時点では成功したと考えている。